



経団連労使フォーラム開催

日本の賃金は伸び悩んでいる！今こそ人への投資を！

1月25日「経団連労使フォーラム」が開催され、2022年の春闘が始まりました。

経団連

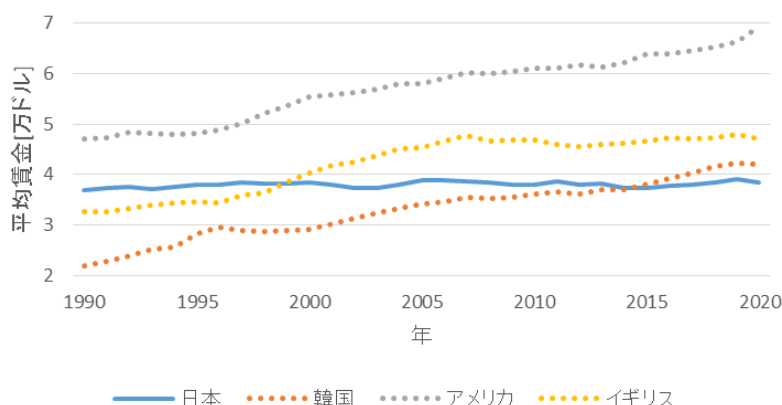
十倉会長は「収益、成果を働き手に適切に分配すべく、企業の責務として賃金引き上げ総合的な処遇改善に取り組むことが非常に重要である。一方で、業績が厳しい企業には事業の継続や雇用維持を最優先にするように」と「一律ではなく、各企業が自社の実情に適した対応を行う」と述べています。

連合は「人への投資の充実さが欠かせない」と述べ、「ベアと定期昇給合わせて4%程度の賃上げ」を要求しました。

連合

労使とも実情に応じた賃上げを目指す動きがありますが、業績等のばらつきから「統一要求」ではなく「労働組合が各企業への申し入れ」が鮮明となっています。現在、燃料費や原材料価格の高騰で値上げが相次いでいます。このような状況で、賃金が上がらなければ、私たちの生活は苦しくなるばかりです！

平均賃金の推移



経済開発機構（OECD）のデータによると、各国の物価水準を勘案して調整した「購買力平価」ベースで、日本の2020年の平均賃金は3.9万ドル（約440万円）で、30年前と比べて4%しか増えていません。

一方、企業の内部留保は2020年度末で484兆円を9年連続で過去最高となっており、賃上げの原資が多くの企業に蓄積されているとの指摘もあります。

個人消費の拡大のためにも、積極的な賃上げだ！